

記録誌の発刊に当たって

廿日市市長 松本 太郎



令和5（2023）年5月19日から21日までの3日間にわたり開催されたG7広島サミットにおきましては、市民の皆様並びに関係各位の多大なるご協力のもと、全日程を無事に終えることができました。

サミット開催に向けては、多くの方々と手を携えながら、開催支援や歓迎機運を醸成するためのクリーンアップ活動、カウントダウンボードの製作、参加7か国にちなんだ学校給食の提供などを実施し、サミットの効果を十分に高めることができました。

中でも、各国首脳及びパートナーの宮島来訪の際に、宮島学園の児童・生徒とともにお出迎えをし、世界のリーダーと対話できたことが大変心に残っています。子どもたちにとって、世界のリーダーとの直接対話は、世界を間近に感じたとても貴重な体験であり、世界情勢や政治に関心を持つきっかけになったと思います。将来、世界に羽ばたく人材となってくれることを大いに期待しています。

また、首脳や招待国などに贈った記念品には、本市の伝統技術や平和を象徴する品など、趣向を凝らした特産品が取り揃えられており、各団体や事業者が一丸となった「オールはつかいち」でのおもてなしができたことを実感いたしました。

さらには、各国首脳やパートナーなどが宮島を来訪されたことで、自然・文化・歴史をはじめとした宮島の魅力や価値を広く国内外に発信できたことはとても大きな成果であったと思います。サミット終了後現在まで、宮島へはこれまで以上に多くの皆様を訪れていただいております、特に外国人観光客は毎月過去最高人数を更新しております。

こうした効果を広く、そして末永く継続させる決意の表れとして、「千年先も、いつくしむ。」プロジェクトを始動させています。

今後、さらに宮島の魅力、普遍的な価値を広く発信し、より多くの人と宮島を慈しむ心の輪を広げていくとともに、サミットで得られたレガシーを未来へと引き継ぎ、市民と手を携えながら、本市のさらなる飛躍・発展につなげてまいります。

終わりに、G7広島サミットの成功に向けご支援、ご協力を賜りました全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

令和6（2024）年3月